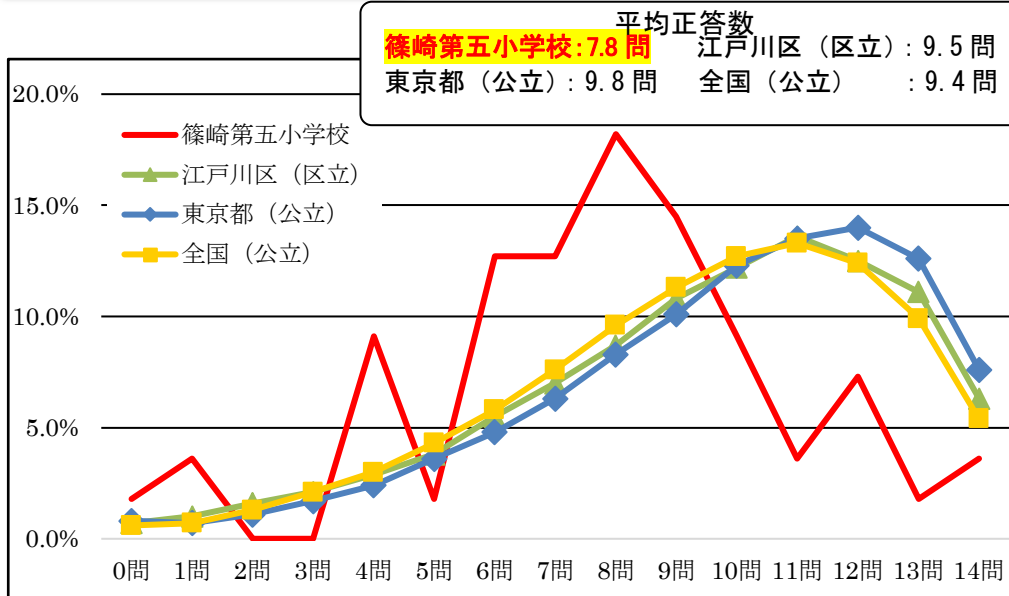


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【国語】 篠崎第五小学校

正答数分布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

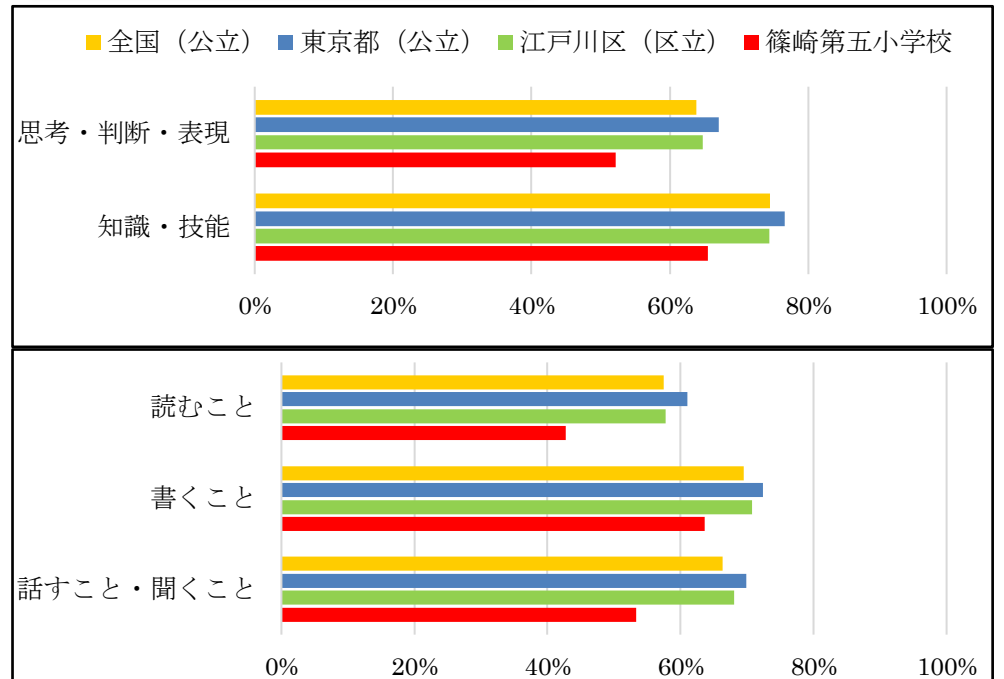
国語	上位 ← → 下位			
	A層 12~14問	B層 10~11問	C層 8~9問	D層 0~7問
篠崎第五小学校	12.7%	12.7%	32.9%	41.7%
江戸川区 (区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都 (公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国 (公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

【平均正答率の差】

篠崎第五小学校	56%
江戸川区 (区立)	68%
東京都 (公立)	70%
全国 (公立)	66.8%
都との差	-14ポイント

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

都との差が-14ポイントであった。C・D層の引き上げが大きな課題である。資料を読んで、考えを書く記述の問題では、無回答率が45.5%であった。条件に合わせて自分の考えを書くことに苦手意識をもっていることがわかる。どの学習でも自分の考えをもつ時間を十分に確保し、考えを発表したり共有したりする機会を増やしていく。漢字の問題においては、都や全国の正答率を上回った。日頃から既習漢字を使うことを意識させる指導を引き続き行っていく。「読むこと」は特に都平均を下回っている。「よむYOMUシート」を活用し、大事な言葉を見付けたり、段落同士の関係に気を付けて読みだりすることで文章を理解する力を高めていく。